

2011年度

科目名	PBL型医療倫理学演習				
担当教員	小川 雅史、廣谷 芳彦				
配当	薬科2			コード	52049
開期	前期	講時	金曜日2限	単位数	1
授業テーマ	[必須]生命・医療に係わるうえでの心構え・態度の習得				
目的と概要	医療人としての基本的なヒューマニズム・医療倫理の習得に加えて自己研鑽・参加型学習による問題解決能力を高めることを目的としている。主に医療現場における倫理に関わる話題を提供し、提示された課題をもとに、少人数グループによるPBL(Problem based learning)形式の演習を通じて、問題抽出・問題経穴能力を養うとともに、生命・医療に係わるうえでの心構え・態度を身につけるようにカリキュラムが作成されている。				
成績評価法	レポート(40点)および平常点(60点)により評価する。				
テキスト	必要なテキストは、授業開講時に配布します。				
参考書	スタンダード薬学シリーズ「ヒューマニズム・薬学入門」日本薬学会/東京化学同人 「実践ファーマシューティカルコミュニケーション」井手口直子監修執筆/日経BP社				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	問題立脚型学習(PBL)においては、与えられた課題・問題を解決するには、最初に多くの情報を収集そしてその内容の正しい理解が必要となるので、小グループ討論前にそれらを行っておくこと。 補助教員:小西広己、藤井敏彦、西山省二、上島秀樹、名徳倫明、初田泰敏、前崎直容、広川美視、堀切勇児、関 庚善、綿野智二、森本正太郎、谷佳津治、西中 徹、山本太一、千原桂子				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	1.イントロダクション (本演習の進め方について) 2.セッション1: 「薬害の背景と薬剤師の役割を考える」 (背景の概説とセッション課題の提示) 担当:廣谷	1.薬害について具体例をあげ、その背景を概説できる。	B(1)	知識
			2.医薬品の適正使用における薬剤師の役割を概説できる。	B(1)	知識
2	少グループ討論(SGD)	セッション1: 「薬害の背景と薬剤師の役割を考える」 (小グループ内での討論) 担当:廣谷	1.課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 薬害事故の防止における薬剤師の重要性を認識する。	独自	知識・態度
			3. 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。	A(1)	態度
3	少グループ討論(SGD)	セッション1: 「薬害の背景と薬剤師の役割を考える」 (小グループ内での討論) 担当:廣谷	1.課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 薬害事故の防止における薬剤師の重要性を認識する。	独自	知識・態度
			3. 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。	A(1)	態度

4	少グループ討論 (SGD)	セッション1: 「薬害の背景と薬剤師の役割を考える」 (小グループ内での討論 担当: 廣谷	1. 課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 薬害事故の防止における薬剤師の重要性を認識する。	独自	知識・態度
			3. 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。	A(1)	態度
5	全体討論	セッション2: 薬物乱用問題を考える(討論結果の発表と全体での討議) 担当: 廣谷	1. グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。	F(8)	技能
			2. 自分達のグループと他のグループの結果を比較して討議する。	独自	技能
			3. 薬害事故の防止における薬剤師の重要性を認識する。	独自	知識・態度
			4. 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。	A(1)	態度
6	講義	セッション1: 「患者の気持ちに配慮し薬剤師の役割を考える」(背景の概説とセッション課題の示) 担当: 小川・廣谷	1. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A(3)	知識
			2. 患者の心理状態を把握し、配慮する。	A(3)	知識
			3. 患者の家族の心理状態を把握し、把握する。	A(3)	知識
			4. 患者やその家族のもつ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるように努力する。	A(3)	知識
7	少グループ討論 (SGD)	セッション1: 「患者の気持ちに配慮し薬剤師の役割を考える」(小グループ内での討論 担当: 小川・廣谷	1. 課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 病気が患者に及ぼす影響を認識し薬剤師の役割を考える	独自	知識・態度
			3. 医療の担い手にふさわしい態度で自らの言葉を表現する。	独自	技能・態度
8	少グループ討論 (SGD)	セッション1: 「患者の気持ちに配慮し薬剤師の役割を考える」(小グループ内での討論 担当: 小川・廣谷	1. 課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 病気が患者に及ぼす影響を認識し薬剤師の役割を考える	独自	知識・態度
			3. 医療の担い手にふさわしい態度で自らの言葉を表現する。	独自	技能・態度
9	少グループ討論 (SGD)	セッション1: 「患者の気持ちに配慮し薬剤師の役割を考える」(小グループ内での討論 担当: 小川・廣谷	1. 課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 病気が患者に及ぼす影響を認識し薬剤師の役割を考える	独自	知識・態度

			3. 医療の担い手にふさわしい態度で自らの言葉を表現する。	独自	技能・態度
			4. 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。	A(2)	態度
10	全体討論	セッション2:病気が患者及ぼす影響を考える(討論結果の発表と全体での討議) 担当:小川・廣谷	1.グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。	F(8)	技能
			2.自分達のグループと他のグループの結果を比較して討議する。	独自	技能
			3. 医療の担い手にふさわしい態度で自らの言葉を表現する。	独自	技能・態度
11	講義	セッション3:「先端医療と生命倫理」(背景の概説とセッション課題の提示) 担当:小川	1. 医療の進歩に伴う生命観の変遷を概説できる。	A(1)	知識
12	少グループ討論(SGD)	「先端医療と生命倫理」(小グループ内での討論) 担当:小川	1.課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	F(8)	技能
			2. 先端医療に関わる医療人としての倫理観を養う。	独自	知識・態度
13	少グループ討論(SGD)	「先端医療と生命倫理」(小グループ内での討論) 担当:小川	1.課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 先端医療に関わる医療人としての倫理観を養う。	独自	知識・態度
14	少グループ討論(SGD)	「先端医療と生命倫理」(小グループ内での討論) 担当:小川	1.課題達成のために他人の意見を理解し、討論する能力を身につける。	E(1)	技能
			2. 先端医療に関わる医療人としての倫理観を養う。	独自	知識・態度
15	全体討論	セッション3:「先端医療と生命倫理」(討論結果の発表と全体での討論) 担当:小川	1.グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。	F(8)	技能
			2.自分達のグループと他のグループの結果を比較して討議する。	独自	技能
			3. 先端医療に関わる医療人としての倫理観を養う。	独自	知識・態度
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(1、3) B(1)	講義	講義室	1(1)	配布資料、スライド	90 X 3
A(1) E(1) 独自	小グループ内での討論	小教室	2(2)	配布資料	90 X 12
A(1) F(8) 独自	全体討論	講義室	2	配布資料、レポート	90 X 3